

キーワード

思考力・判断力・表現力等の育成

標 題

小中連携による 伝え合い、学び合う児童・生徒の育成を目指す取組

①学校の概要（平成25年7月24日現在）

・児童生徒数 396名 ・学級数 14学級 ・教職員数 33名

②取組を始めた経緯

長船校区では、平成21年度の全国学力学習状況調査の結果、「表現力」「家庭学習」について充実させる必要性が認められてきた。そこで、「高めよ学力！磨け人間力を！」をスローガンに、平成22年度から、中学校区をあげて、学力向上に取り組んできた。

③取組の実施体制

年に3回程度、長船中学校区の4校の担当者が集まり、各校の進行状況・課題等の共通理解及び協議を行う。また、夏休みには、全職員出席の小中の合同研修会を行い、講話を聞いたりグループ協議を行ったりする。各校で実践している授業を公開し、他校の教職員も参観する。

④学力向上に向けた具体的な取組

- ①長船中学校区の小中学校の校内研究主題を共通にして各校で実践する。「生き生きと伝え合い、共に学び合う児童・生徒の育成」
- ②本校においては、国語科に重点をおき、全教員が年間に1回以上の授業公開をして、全教員で協議を行う。
- ③授業の中で、次の3つの手だてを講じて、授業研究に取り組む。「授業の意識の流れを大切にした単元構想及び課題設定」「児童の考えをもたせるための工夫」「考えを広げたり、深めたりする話し合いの場の工夫」
- ④算数科において、3年生以上は習熟度別少人数指導に取り組む。
- ⑤計算・漢字の小テストを随時実施する。
- ⑥自信をもって授業に臨むことができるように基礎学力を定着させる取組をする。（放課後学習「かがやきタイム」、夏休みの「算数教室」）
- ⑦家庭学習の習慣を身につけさせるために、「家庭学習のてびき」を全児童に配付し、指導する。

⑤取組の成果と課題

一昨年度より2年間、外国語活動を中心に全教科領域で研究を進めてきた成果として、①小中学校間の教員の意識改革から授業形態の改善へと向かうことができたこと、②外国語活動を中心に主体的に人と関わりながら、思いを伝えようとする姿が見られるようになってきたことがあげられる。本年度は、国語科を柱に、授業の中で「友達と意見交流をすることを通して考えを深めること」「話し合い活動の基本となる技能の向上」「折り合いをつけながら問題解決に向けてグループや学級で協力しようとする事」を課題として取り組んでいきたい。

⑥取組の継続・発展の要因

各教科・領域でグループによる話し合い活動をできるだけ取り入れて、「学び合い」を組織していくようにするとともに、一人ひとりの児童の発言が教材のどこにつながっているのか、他の児童のどの発言とつながっているのかを認識しながら授業づくりに取り組むことで、学び合う力を高めていきたい。そのために、一人ひとりの児童の考えをしっかりとせながら、ペアで、グループで、全体でと意見交流の形態を段階的に広げていって、他の児童の感じ方の違いに気付かせ、話し合いを通して、お互いが考えを広げたり、深めたりできるように取り組むようにしたい。

⑦管理職・中核教員等のアクション

○アドバイザーとして授業研や校内研修等で指導及び助言を行った。
○他校との連携の中心的な存在となった。

⑧資料・写真等

--	--